

カンピオン先生のレッスンを受講して

数年前から受付等のお手伝いをさせて頂き、間近にカンピオン先生のレッスンを拝見しております。

聞いて即実践できる教えではないものの、おっしゃるタッチを毎年講習の度に練習しておりましたら、悩んでいた親指の付け根の痛みが無くなるなど、密かに効果を感じておりました。

個人的な話ですが、ピアノを買い替えた際に、一番右のダンパーペダルが重くなったと感じつつ、そのまま練習しておりましたら、少しずつペダリングが辛くなってきて、最後には歩く際にも足が痛くてたまらなくなりました。

結局アキレス腱炎症、足底筋炎症を起こしており、半月ほどギブス生活を強いられました。

その後、足は私のウィークポイントとなり、ペダリングが気になりつつも、どの先生に伺っても、あら、そんな事あるのねという反応。

ですのでカンピオン先生に、絶対足は見て頂こうと思っていました。

結果、右足首をふらつかせないように、また左足での支えが不十分、と客観的に判断して頂けました。でもそんなにおかしくなかったらしく、不安が解消できました。

また和音の連打、フォルティッシモ以上の音が汚い事を相談しました。

『肩甲骨を開くこと』を心がけるよう、アドバイスいただきました。先生に肩甲骨を支えていただくと、意識しやすかったです。

私は弾こう、弾こうとして、下に押し付けるタッチをしていたようです。

そのため腕の力が抜けず、詰まった音を出していました。

打鍵した直後に脱力できた音は「何か突き抜けた」と感じました。

この違いには感動し、今でも鮮烈な印象で忘れられません。

私は小柄で細身なため、致し方ないとどこか諦めていましたが、まだまだ先があると希望が持てました。

もう一点、自分の癖が分かりました。

脱力しようとして、特に薬指や小指で音を出す際、肘を外側に回していたようです。

肘を曲げることで、力が十分に指まで伝わらないことを、クレーン車に例えて教えていただきました。

この動きを意識して止めたところ、随分楽になりました。

普段のレッスンでは、姿勢やタッチのみを見て頂くことはありません。

皆多かれ少なかれ、痛みを我慢しながら演奏しているのではないのでしょうか？

困る前に見ていただく事が、良い音楽のためにも全員に必要なだと思います。

今回直接受講できた事を、改めて深く感謝致します。